

JA筑紫ちくし農業塾開講式



JA筑紫は7月1日、筑紫野市のJA物流センターで第11期ちくし農業塾開講式を開き、11カ月間に及ぶ講義がスタートしました。塾生14名は、20～70代と幅広い世代。習得した知識や技術を生かし、JA直売所の出荷者や生産部会の一員となる販売農家を目指します。

式には、行政関係者やJA役職員など14名が参加。塾生は「農業の基本を学び、消費者に喜んでもらえる野菜を作りたい」など一人ひとり抱負を述べました。講師を務める室園正敏さんは「11カ月間の講義を自分にとって価値があるものにしてほしいです」と挨拶しました。

白水組合長は「健康に気を付けながら、皆さんの目標とする農業を目指してほしいです」と塾生を激励しました。

JA筑紫は、新規就農者や農業後継者の育成を目的に、露地野菜や施設園芸についての実習・講義を行う「ちくし農業塾」を2011年度から開講。第1期から10期までに93名が修了し、それぞれが直売所出荷者や生産部会員などとして活躍しています。

「コロナに負けるな！頑張る高校生応援プロジェクト」



JA筑紫は7月1日～9日のうち5日間、「コロナに負けるな！頑張る高校生応援プロジェクト」として、管内の高等学校11校にJA直売所「ゆめ畑」などで使える商品券を贈りました。これは、JAで行う「ふれあい活動」の一環で、今年で2回目。JA管内の未来を担う高校生への地産地消運動につなげます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校の各種行事が中止になるなど、活動が制約される状況が続いています。その中でも勉強や部活動へ真剣に取り組む高校生へ「コロナに負けないように頑張ろう！」と応援するため企画しました。

9日には学校法人八洲学園 福岡女子商業高等学校を訪問。JAの白水組合長が柴山翔太校長と3年生の中川茜さん、工藤亜弥さんへ商品券を手渡しました。白水組合長は「コロナ禍で大変だと思いますが、農畜産物で力をつけてほしいです」と話しました。商品券を受け取った生徒は「大変ありがとうございます。大切にさせていただきます」と謝辞を述べました。

福岡女子商業高等学校は、総合ビジネス科、情報ビジネス科の2科を置き、2017年4月には那珂川町立から同法人に移管しました。生徒たちがグループに分かれ、様々な企業の元で行う販売実習「女子商マルシェ」など、たくましく自らを励む「志」ある女性を目指して、様々な活動をしています。

夏芽アスパラガス 出荷規格を確認



J A筑紫アスパラガス部会は7月14日、筑紫野市の集荷場で部会定例会を開きました。目合わせを行い、出荷規格や基準などについて部会員で話し合いました。福岡普及指導センターや部会員、J A農業振興課職員等17名が参加。

高石光幸部会長は「今回の目合わせで規格などの基準をしっかりとそろえ、品質の良いアスパラガスを出荷しましょう」と呼びかけました。

夏芽アスパラガスの生育はおおむね順調。今後も病害虫防除を徹底し、高品質なアスパラガスの出荷に取り組みます。

小学生が料理に挑戦



J A筑紫筑紫駅前支店と原田支店は7月21日、ふれあい活動の一環として、筑紫野市の筑紫南コミュニティセンターとこども料理教室を共催。児童10名が参加しました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりましたが、今年は感染対策を徹底したうえで開きました。

調理は、J A女性部員とJ A職員が指導。地元産の野菜やAコープマーク品を使って「むしパン」「みそ玉」に挑戦。子ども達は、女性部員らと楽しみながら調理を行いました。

参加した子ども達は「上手く作ることが出来てとても嬉しい。家でも作ってみたいです」と笑顔で話しました。

現地講習会で意思統一を図る



J A筑紫稲作部会は7月29日、J A物流センターと筑紫野市3カ所の圃場で現地講習会を開催。部会員や普及指導センター、J A担当職員等20名が参加しました。

講習会ではJ A担当職員が生育状況や病害虫について説明。部会員は害虫を粘着板に附着させたものを見ながら、発生状況や防除の方法について積極的に質問しました。

2021年産の生育は、平年より6日早く梅雨が明け、高温多照が続いたためおおむね順調です。

J A稲作部会の藤井徳浩部会長は「近年トビイロウンカの発生が多いため、とてもいい講習会でした。部会の意思統一を図り、高品質な米を出荷したいです」と話しました。